# ホソエガサ

*Acetabularia caliculus* Lamouroux

カサノリ目 カサノリ科

| | |
|---|---|
| 石川県カテゴリー | 準絶滅危惧 |
| 国カテゴリー | 絶滅危惧Ⅰ類 |

**選定理由**
浚渫等により一部の生育地で、消失が確認されている。能登半島がカサノリ科海藻の世界の北限地として知られる。また、日本では今の所、確実に採集できるのは能登沿岸しかない。本県にとって貴重な海藻である。

**形　　態**
体は高さ4～5cmになり、茎部は石灰質を沈積する。成長の初期（6～7月中旬）は毛状葉を輪生し、成長する（7月下旬～9月）と頂部に傘状部を付ける。傘は、風で裏返しになったような形で、直径は5mmくらい。

**国内分布**
本州太平洋岸中・南部、瀬戸内海、九州、本州日本海岸中部。

**県内分布**
能登沿岸の旧13市町村の内10市町村で記録がある。特に能登内浦では新産地が次々と知られてきている。

**生　　態**
貝殻やウニの殻などに付着生育する特性があり、能登沿岸では砂地のアマモ場の中あるいはやや沖合のウミヒルモ群落内に形成される貝類の遺骸堆積地で見出されている。ここは、白い貝殻片が明るく輝いているので砂泥質の海底との区別は容易である。

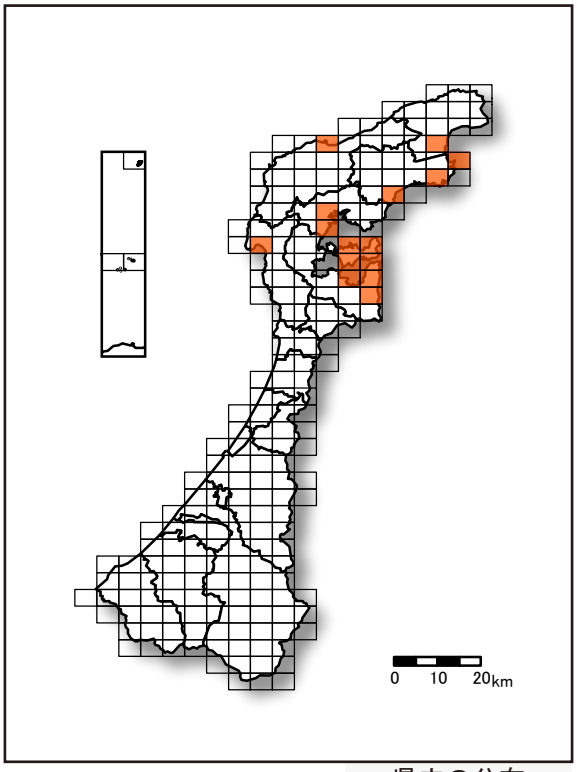
**生育地の条件**
波浪などの影響で貝殻片が集積される「貝類の遺骸堆積地」に限る。貝殻片は、付近に生息する貝類に由来しており、多様な貝類が豊富に生息していることが大切な条件となる。

**生存の危機**
県内では、さしあたっての生存の危機はない。しかし、本種が生育し続けるには、海底で光合成するに十分な光を届ける透明度の高い海水を、また貝類が豊富に生息する環境を維持する必要がある。現状維持が存続の条件と思われる。

**特記事項**
近年の日本においては能登沿岸以外では思うように採集されず、瀬戸内海や伊勢湾ではすでに絶滅したと考えられることから石川（1998）は絶滅危惧種とした。

**参考文献**
佐野　修・池森雅彦・新崎盛敏．1981．ホソエガサの能登半島における分布と生態．藻類，29：31-38.
石川依久子．1998．ホソエガサ．日本の希少な野生水生生物に関するデータブック（水産庁編），348-349．日本水産資源保護協会，東京

写真提供者：佐野修




県内の分布